

業績ハイライト (国際会計基準)

2021年度業績

2022年度見通し

連結純利益^{※1}

9,375 億円

8,500 億円

配当金^{※2}

年間配当 150 円

年間配当 150 円

連結純利益



基本的1株当たり当期利益^{※3}

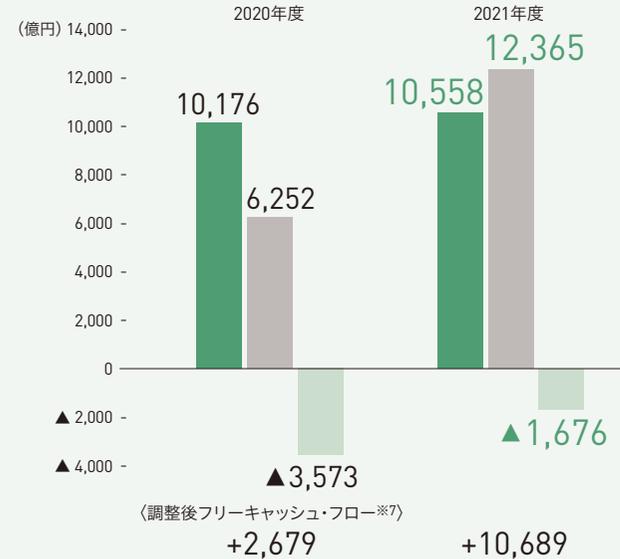


その他の指標

	収益	総資産	資本 ^{※4}	ROE ^{※5}
2020年度	128,845 億円	186,350 億円	56,136 億円	3.2%
2021年度	172,648 億円	219,120 億円	68,802 億円	15.0%

キャッシュ・フロー

■ 営業キャッシュ・フロー ■ 営業収益キャッシュ・フロー(リース負債支払後)^{※6}
■ 投資キャッシュ・フロー



2021年度 投資キャッシュ・フローの内訳

主な新規・更新投資

- ・銅事業及び豪州原料炭事業(金属資源グループ)
- ・LNG関連事業(天然ガスグループ)
- ・欧州総合エネルギー事業及び海外電力事業(電力ソリューショングループ)
- ・北米不動産事業及びアジア不動産事業(複合都市開発グループ)
- ・コンビニエンスストア事業(コンシューマー産業グループ)

主な売却及び回収

- ・北米シェールガス事業(天然ガスグループ)
- ・海外電力事業(電力ソリューショングループ)
- ・北米不動産事業及び航空機リース事業(複合都市開発グループ)

業績の詳細については、[三菱商事ホームページ](#)に掲載しています。



三菱商事 決算公表資料 検索

※1 「連結純利益」は、非支配持分を除く、当社の所有者に帰属する連結純利益を表しています。

※2 「配当金」は、1株当たりの額を表しています。

※3 基本的1株当たり当期利益は、連結純利益を発行済株式総数(自己株式及び潜在株式は含まない)で除したものです。

※4 「資本」は、非支配持分を除く、当社の所有者に帰属する資本を表しています。

※5 ROE(Return on Equity): 資本に対する連結純利益の割合。資本利益率。

※6 営業収益キャッシュ・フロー(リース負債支払後): 運転資金の増減影響を控除した営業キャッシュ・フロー(連結純利益(非支配持分を含む) - 減価償却費 - 投資活動関連損益 - 未配当の持分法損益 - 貸倒費用等 - 繰延税金)にリース負債の支払額を反映したものです。

※7 調整後フリーキャッシュ・フロー: 営業収益キャッシュ・フロー(リース負債支払後)と投資キャッシュ・フローの合計。

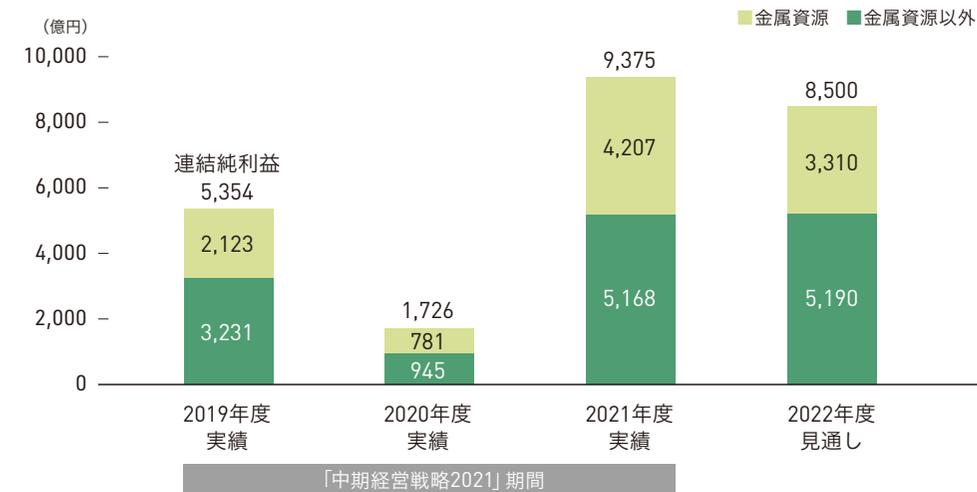
2021年度決算及び2022年度の業績見通し

業績

「中期経営戦略2021」の最終年度となる2021年度の三菱商事グループの連結純利益は、9,375億円となりました。前年度と比べて7,649億円の増益となり、過去最高益を更新しました。経済の回復局面における事業環境の改善に加え、資源価格の堅調な推移も追い風になったことなどにより、2022年2月3日公表の通期業績見通し8,200億円を上回る結果となりました。

2022年度は、事業環境に対する不透明感は増していますが、収益基盤のさらなる改善と安定的な利益確保を進め、通期業績見通し8,500億円の達成を目指します。

●連結純利益の推移



配当

当社は、「中期経営戦略2021」で累進配当を基本方針としており、2021年度の年間配当は、1株当たり150円としました。

「中期経営戦略2024」においても持続的な利益成長に応じて増配を行う累進配当を継続する方針とします。30～40%程度の総還元性向を目処とし、自社株買いは財務規律の下で機動的に実施する方針としました(詳細はP.12をご参照ください)。これらを踏まえ、2022年度の配当見通しは2021年度と同額の1株当たり150円としました。

●1株当たり配当金の推移

